

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	山岳部報
Author(s)	
Citation	龍南, 186: 51-52
Issue date	1923-07
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8651
Right	

東醫 熊本 佐々木 計
東醫 岐阜 安江 俊一
東醫 佐賀 犬塚 俊章
東工 福岡 高田 秀實
九醫 福岡 瓜生 英二
千葉醫 神奈川山中 秀

熊本 渡邊伊勢雄
福岡 武石 喜三
長崎 深堀 保郎
佐賀 家永 敬三
山口 藤津 達夫
佐賀 植松 道文

九醫 福岡 田中 一
京經 熊本 今福 正義
東醫 大分 荻本 守衛
東農 兵庫 梶 豊
九醫 熊本 平野 清人

東醫 香川 大久保治敏
東北理 高知 近森誠一郎
東工 北海道 森 尙
九醫 福岡 古森善五郎
九工 福岡 鹽塚 重藏

山岳部報

山岳部昨春秋以來本年六月迄の部報左の如し。

◆山岳展覽會

十月十日開校紀念日を期として吉例の山岳展覽會開催。場所本館階下教室二。入場者頗る多く盛會。

◆猶岳登山(十一月五日)

リーダー横山正男——以下參加者八名。宮地より日尾峠に行きそれより登路につく。岩石の落下甚だしくて危険の上なく遂に頂上を極むるを得ず。九合目まで行きて下山す。

◆山岳部送別會

二月十日午後三時より山岳部送別會をヤンキートに於て催す。會者、西澤部長、鈴木

横山、阿部(以上卒業生)中島、廣瀬、大林吉満(以上在校生)

◆部長更迭(三月)

西澤部長高知に去られ後任に淺井先生を推す。

◆春季登山計畫

新年度第一回の活動として春季休暇を利用し左の四班計畫發表。

第一班 開開、櫻島方面

第二班 霧島山方面

第三班 祖母、久住山方面

第四班 溫泉岳方面

右の中、第一、第三班は各數名の申込みありしも第一班はリーダー(余)の都合により

第三班は天候不良の爲解散、第二、第四班のみ出發。その概況左のし。

第二班 霧島山方面
班員、寺田、美作、山本、松前、高見、
(以上文二甲二)森田(文二甲三)山本(理
一乙)

三月十一日雨、上熊本(前八、〇一發)——
加久藤(後二、〇九着)——白鳥下湯(後四
、三〇着)一泊

三月十二日晴、白鳥下湯(前八、三〇發)、

白鳥山——韓國岳(一七〇〇米)——硫黄
谷(後四、〇〇着)一泊

三月十三日晴、硫黄谷(前八、〇〇發)——

霧島神宮——高千穂峯(一六〇〇米)——

高原(後六、〇〇着)解散

尙解散後美作を除き他の六名にて櫻島登山
を共行して歸る。元氣稱すべし。

第四班 溫泉岳

班員、福永(理一甲三)

三月十一日 熊本——三角——島原

三月十二日 島原——古湯——小濱

◆祖母、久住山登山

あながち春休みの計畫のまき直しといふ譯ではない。時は四月下旬、新緑燃ゆるが如き候である。こんな時青空に白雲の悠々浮んでゐるのを見るさ矢も楯もたまらず山へ行きたくなるさいふ癖が我々にはある。であちこち物色して選に入つたのが前記二山。班を二つに分ちて出發。

第一班 祖母山

班員、中島、田尻、橋本、中、金子(以上文三甲一)鹽田(文三乙)大林峯(理三甲

二)廣瀬(理三乙)

第一日(四月二十九日)風雨 立田口——宮地——津留

第二日 晴 津留——祖母山(一七五〇米)

——竹田

第三日 晴 竹田——宮地——熊本

第二班 久住山

班員 野田、秋澤、町野(以上文三甲三)

足達(理二乙)村田(文二乙)

第一日 晴 立田口——宮地——九住町

第二日 晴 九住町——九住山(一七八〇米)——宮地——熊本

前記二班共に可なりの難行軍である。殊に第一班は第一日を風雨のために苦しめられたが而かも兎も角も一名の落伍者をも出さず計畫通り敢行したのは偉とするに足る。

◆八方岳登山(五月六日)

参加者 中島光風、徳廣巖城、町野靜雄 山本弘毅

「行かずや八方へ、みやまきりしま花盛り」の廣告が可なりの人氣を喰つたらしかつたが天候不良のため参加者の少かつたのは残念だつた。終始雨に降られ、麓の民家で借りた二本の傘に四人が入つて、相合傘で千米の山へつじ見物さいふ圖は一寸見ない所である。供し山頂に達する頃から雨漸く上り、あちらの山麓からもこちらの谷間からも雨後のねばねばした様な白雲が、ぞろぞろ出て来て脚下を徂來し、却つて興を添へた。頂で折つたつじ、石楠花の花を家つみに八時半歸着。

◆夏季登山計畫發表

六月十一日夏季登山計畫を立て發表した。檄に曰く、

「夏が來た。夏が來た。濃藍の空のはたて悠々迫らざる緑を畫いて起き伏し續く遠山並の姿を望む時、我ら若人の胸は如何にあらがれの心もてふくれ上る事よ。まこと山こそは我が心のふるさと。行かうよ、兄弟たち、ゆいて山ふさこの數日の生活にあくまで清淨な山の氣に浸つて身、心の汚れを洗ひ去らうではないか。

我らが書き入時夏休みを如何に有効に過すかにつきて我らはこゝに左記數班を計畫した。多數諸君の参加を期待する」云々計畫左の如し。

第一班 四國縦斷

第二班 大和アルプス縦走

第三班 日本北アルプス踏破

第四班 朝鮮金剛山探勝

第五班 南支那見學

以上

六月二十四日 光識